

ダンス作品作りを体験しよう  
スクランブル・  
ダンスプロジェクト

小田原市文化創造活動担い手育成事業

## スクランブル・ダンスプロジェクト

～障がいのある人ない人共に楽しもう～



小田原市文化部文化政策課



## はじめに

障がい者と健常者を言葉にした時点で両者には隔たりが感じられます。仕方のないことかも知れませんが、いつかその隔たりが社会の中でスクランブルできる状況になるといいなと思います。人と人が関わっていく中で、お互いを優しく見て、理解し、尊重し合える世界を目指すことで、お互い感じている垣根を取り払えるのではないかと思います。「スクランブル・ダンスプロジェクト」にはこんな思いが込められています。

平成25年6月

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」制定

平成25年9月

「東京オリンピック・パラリンピック」開催決定

平成28年6月

「スクランブル・ダンスプロジェクト」始動

ダンス作品作りを体験しよう  
スクランブル・  
ダンスプロジェクト  
障がいのある人もない人も一緒に

## 障がい × 健常者

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の制定、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など様々な障がいを持たれている人々のより一層の活躍が期待されている中、小田原市文化創造活動担い手育成事業の一環として、「スクランブル・ダンスプロジェクト」が始まりました。

このプロジェクトは、障がいのある人ない人が同じ場所で一緒になって踊るという、体験を共有することを大切にしています。ダンスを通して障がい者・健常者が触れ合い、互いを理解しあうきっかけを作りたいという思いから、あえて別々ではなく一緒にワークショップを行っています。

障がいのある方へのアプローチやサポートに市内で障がいのある人のアートの場づくりを実践しているNPO法人アール・ド・ヴィーヴルの協力を得て、講師には世界的な舞踏家である大野慶人さんをお迎えし、平成28年8月6日に第1回のワークショップを開始しました。

将来、ダンスの公演ができればという密かな願いを持っての始動でした。

## NPO法人アール・ド・ヴィーヴル



小田原市を拠点に障がいを持つ人に活動の場を提供する団体。アートディレクターとして障がい者のアート活動に多く携わってきた優れた指導者のもと創作活動を行う。

アートワークショップのほか、織り、陶芸、料理、英会話、親子ヨガなど、障がいを持つ人のためのさまざまなプログラムを定期開催。2016年4月、小田原市久野に就労継続支援B型事業所をオープン。

アール・ド・ヴィーヴルという名称は「自分らしく生きる」という意味のフランス語に由来する。

就労継続支援B型事業所アール・ド・ヴィーヴル

小田原市久野 906 アネシスヒルズ 102

URL <http://artdevivre-odawara.jp>



## 小田原市文化創造活動担い手育成事業

小田原市の将来の文化創造活動の担い手を育てる事業。平成23年度より公演やコンサートなどの鑑賞事業を始め、アウトリーチ、ワークショップなど、子どもからお年寄り、健常者、障がい者の隔てなく、全ての市民が芸術に触れ、参加できる事業を展開。

平成28年度

## 第1回 ダンスワークショップ

日時 平成28年8月6日（土）  
場所 三の丸小学校 アリーナ  
講師 大野慶人  
参加 30人



最初のワークショップ、講師の大野慶人さんとの初めての出会い。ゆっくりとした音楽が流れる中、「空間を感じてみましょう、自分を感じてみましょう」。大野さんの言葉に導かれて、自由に動き出す。障がいのある人に言葉がどう伝わるのかという当初の不安は消えていく。



## 第2回 ダンスワークショップ

日時 平成28年12月17日（土）  
場所 三の丸小学校 アリーナ  
講師 大野慶人  
参加 17人



最初に参加者みんなで大野さんの踊りを鑑賞。うさぎの耳をつけて踊る大野さんの姿に何を感じたかな。みんなは2つのグループになって大きな布やお花を持って、繋がりあうように踊る。

photo by 木村雅章



### 第3回 ダンスワークショップ

日時 平成29年6月24日（土）  
場所 三の丸小学校 アリーナ  
講師 大野慶人  
参加 29人



今日の大野さんはお花をかぶって踊っている。風になって、バラの花になって、一人ひとり自分をイメージする帽子をかぶって、自分を感じながら踊る。健常者の人の方が自分が分からなくて戸惑う。自分を信じるって大切なことなんだよ、という大野さんの言葉が心に響く。



### 第4回 ダンスワークショップ

日時 平成29年11月25日（土）  
場所 三の丸小学校 アリーナ  
講師 大野慶人  
参加 17人



生きることは深い川のようだ。大野さんの言葉がみんなを動かす。河の流れのように形を変えながら、繋がって、離れて、そしてつながって踊る。いつも耳を塞いでいる自閉症の参加者がみんなと手をつなぐ時は自然と耳から手を放す。



## 第5回 ダンスワークショップ

日時 平成30年2月24日(土)  
場所 小田原市民会館 小ホール  
講師 松岡 大  
参加 24人



今回より大野さんより引継ぎ、松岡さんが講師となって参加。松岡さんの笑顔にみんなすぐに仲良しに。午後の発表会に向けて、リハーサル。

## ダンス発表会「雪月花」

日時 平成30年2月24日(土)  
場所 小田原市民会館 小ホール  
出演 ワークショップ参加者  
来場 100人

松岡さんの言葉を受け、お客様の前でちょっと緊張しながらも、一人ひとり心のおもむくままに踊る。風車を持ってつむじ風になり、軟らかさと強靭さを感じる綿を引っ張る。色々な帽子をかぶり、地面から伸びゆくバラの花で生命の尊さを掲げる。最後は月になって、みんなでつながって輪になる。踊るみんなの心が客席を包み込み。発表後は、体調が悪いながらも大野さんが踊ってくださり、空間が祈りの世界に一変した。



photo by 木村敬一



### 参加者の感想

- ・型からでなく、一人ひとりの心、身体の中からの感覚が表に現れるワークショップは素晴らしいかったです。
- ・自分のありのままの表現で、自分を表現するのがすごく良かった。
- ・自分探しをすることができてよかったです。思ったことはバラのように裏表なく堂々と生きてゆこうと思った。
- ・みんな楽しそうに踊っていて観てる方も楽しい気分になりました。
- ・とても多くの学びがありました。深く瞑想的で気づきがたくさんでした。心洗われました。
- ・表現の仕方も個性豊かで、やっているのも見ているのもすごく良かったと思う。
- ・普段生活をしているとあまり関わったことがなかったり、知らない今まで終わってしまったりしていたのでもっといろんな人と交流して自分の知識を深めていこうと思いました。



### 文化セミナー みんなちがって、みんな一緒！ －公共施設のバリアフリーと障がい者差別解消－

日時 平成28年10月9日（日）

場所 おだわら市民交流センター U M E C O 会議室4

講師 尾上浩二（N P O 法人 D P I 〈障害者インターナショナル〉日本会議 副議長）

ゲスト 萩原美由紀（N P O 法人アール・ド・ヴィーヴル理事長）

参加 30人

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成28年4月1日施行）」の施行を受け、一人ひとりを大切にする社会（共生社会）の実現に向けて、N P O 法人 D P I 日本会議 副議長で、自身も車椅子で生活されている尾上浩二さんを講師にお迎えし、差別解消法の説明、公共施設のバリアフリー、健常者と障がい者の間にある障壁についてお話しいただいた。また、N P O 法人アール・ド・ヴィーヴル理事長の萩原美由紀さんによる活動報告や尾上さんとの対談、会場の皆さんとの意見交換等を行った。



### 文化シンポジウム 障がいのある人もない人も共に楽しむ共生社会に向けて－

日時 平成30年2月24日（土）

場所 小田原市民会館 小ホール

パネラー 大江 耕太郎（文化庁文化部芸術文化課文化活動振興室長）

萩原 美由紀（小田原市教育委員、N P O 法人アール・ド・ヴィーヴル理事長）

間瀬 勝一（小田原市芸術文化活動専門員）

参加 105人

文化庁文化部芸術文化課文化活動振興室長の大江耕太郎さんに文化芸術振興基本法の改正についての説明や、文化芸術推進基本計画における高齢者・障害者等が行う文化芸術活動充実のための施策、東京オリンピック・パラリンピックへ向けた文化プログラムなど、国の共生社会実現に向けた文化芸術施策の方向性についてお話しいただいた。N P O 法人アール・ド・ヴィーヴル理事長の萩原美由紀さんは表現活動で障がいのある人と社会をつなぐ取り組みについてご紹介いただきたい。また、スクランブル・ダンスプロジェクト参加を通して見つけた障がいのある人の新たな可能性に目を向ける大切さについてお話しいただいた。



# 舞踏 × 障がい

舞踏（ぶとう）という身体表現は、1950年代に土方巽、大野一雄により形成された「暗黒舞踏」の流れを汲んでおり、日本独自の身体表現として「Butoh（ブトー）」と呼ばれ世界でも高い評価を受けています。舞踏は一般的にイメージするダンスとは少し異なり型や決められた振付がなく、心の内面を身体で表現する。感じることが一人ひとり違うように、動きも一人ひとり違ってくる。この舞踏の要素が、障がいのある人を対象に行うワークショップに非常に合うことに、プロジェクトを進めていく中で気づいた。身体障がいのある人などにはやりたくても難しいことがあるが、できる人に合わせるのではなく個々のできる範囲で個々の表現を行ない、それを互いに尊重しながら踊る。障がいのある人の豊かで幅広い表現に頭で考えがちな健常者は驚き、触れ合いながら踊る中で共感する。心を触れ合わせる瞬間、そこに障がいは存在しない。それを教えてくれたのは大野慶人さんである。

## みんなは“そこ”にいるだけで作品なんだよ — 大野慶人



平成28年の冬、横浜市保土ヶ谷にある大野一雄舞踊研究所に伺った。世界各国の研究生たちが指導を受けるために集まっており、その中心に大野慶人さんは静かに佇んでいた。稽古が始まり、大野さんがふと口にした言葉「あなたはそこにいるだけで作品なんだよ」。欠けているところなんてない、みんな完璧な存在であると。この言葉に見学に行った私たちは胸がいっぱいになった。まさに、これから行おうとしている「スクランブル・ダンスプロジェクト」の精神そのものだったからである。私たちはこの言葉と共に大野さんの遺志を引き継ぎ、プロジェクトを進めている。



### 舞踏家 大野慶人 Yoshito Ohno

1938年東京に生まれる。1959年土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。60年代の暗黒舞踏派公演に参画。69年初リサイタル後に舞台活動を中断、85年「死海」で大野一雄と共に演、カムバックした。86年以降大野一雄の全作品を演出。近作にヴァッパタール舞踊団ダンサーとの共演「たしかな朝」(2010)、音楽家アントニーとの「Antony & Ohnos」(2010)。ソロ作品「花と鳥」(2013)はヨーロッパ(2014)、ブラジル(2015)を巡演。著書に『大野一雄 魂の糧』(フィルムアート社)、『舞踏という生き方』(かんた)。2020年1月8日逝去(享年81歳)。



## 平成30年度

### 第6回 ダンスワークショップ

日時 平成30年8月26日（日）  
場所 三の丸小学校 ふれあいホール  
講師 松岡 大  
参加 13人



今回より舞踏家の松岡さんが講師として参加。みんなでまねっこしたり、ころがったり、手と足、身体全体を使って動き回る。三の丸小学校ふれあいホールのアットフォームな空間が触れ合いを生み、今までの参加者が初めての人を自然とフォローしあう。



### 第7回 ダンスワークショップ

日時 平成30年10月28日（日）  
場所 三の丸小学校 ふれあいホール  
講師 松岡 大  
参加 13人



今回、初参加した車イスの参加者、始めは緊張していたけれど、みんなと手が触れ合ううちに自然と輪の中に入ることが出来た。参加者みんなで踊りながら交代でサポートしあう。松岡さんの言葉にイメージを膨らませて踊るのがとても楽しそう。

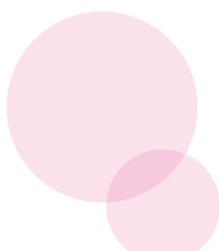


## 第6回 ダンスワークショップ

日時 平成30年8月26日（日）  
場所 三の丸小学校 ふれあいホール  
講師 松岡 大  
参加 13人



今日は小ホールの壁にアール・ド・ヴィーヴルさんの大きな絵を飾って、絵の前で踊る。カラフルな絵からパワーをもらいながらいつもより激しく踊るみんな。車イスの参加者が家では寝返りを打たないので、みんなと一緒に床で転がる中で寝返りができたり、嬉しい変化も生まれてきた。



### 舞踏家 松岡 大 Dai Matsuoka

上智大学卒業。桑沢デザイン研究所卒業。

2005年より山海塾に舞踏手として参加。「金柑少年」「とばり」「うむすな」「めぐり」などの主要作品に出演中。2011年より、街を歩きながらミュージシャンとダンサーによるライブを鑑賞するウォーキング形式のパフォーマンスイベント「LAND FES」を主催。障がいの有無に関わらず子どもたちとアーティストがともに創りあげるインクルーシブワークショップ「音っとっと」主催。2016年12月には、故・蜷川幸雄氏の意思を引き継いだ、高齢者による世界最大級の群集劇「一万人のゴールドシアター2016」にてムーブメント演出のディレクションを務めるなど、多方面で活躍。2016年よりNPO法人ダンスカイヴ構想理事。

## 令和元年度

### 第9回 ダンスワークショップ

日時 令和元年5月19日（日）  
場所 三の丸小学校 ふれあいホール  
講師 松岡 大 ゲスト バケツドラマー MASA  
参加 26人



講師の松岡さんに加えて、特別ゲストとして、バケツドラマー MASAさんが登場。バケツや塩ビ管のディジュリドゥで音を奏でる MASAさんのリズムに合わせて、みんなノリノリで踊り狂う。音に過敏な参加者も、MASAさんの音は不思議と心地よいようで、楽しんでいた。



### 第10回 ダンスワークショップ

日時 令和元年8月18日（日）  
場所 小田原市民会館 大ホール  
講師 松岡 大  
参加 20人



ダンス公演を想定して、大ホールの舞台上で開催。場所がいつもとかなり違うことに戸惑いながらも、色とりどりのライトの下で踊り始める。大きな紙をなびかせながら、舞台上と客席の広い空間を自由に行き来する。



## 令和元年度

### 第11回 ダンスワークショップ

日時 令和元年11月30日（土）  
場所 小田原市民会館 小ホール  
講師 松岡大 ゲスト 中津川浩章  
参加 20人



講師の松岡さんに加えて、特別ゲストとして美術家でアートディレクターの中津川浩章さんが登場。中津川さんがアル・ド・ヴィーヴルのメンバーと作った色とりどりの長い紙をダンスと組み合わせる。かぶったり、衣装にしたり、なびかせたり。新しい小道具に気持ちも盛り上がる。



1月8日にお亡くなりになった大野慶人さんの写真とバラの花に見守られながら。大野先生の想いを引き継いで、続けてきたワークショップ。途中からグループに分かれて、即興で作ったダンスをお互いに見せ合う初めての挑戦。

### 第12回 ダンスワークショップ

日時 令和2年1月18日（土）  
場所 小田原市民会館 小ホール  
講師 松岡大  
参加 11人



## 小田原市文化創造活動担い手育成事業 スクランブル・ダンスプロジェクト報告書

主 催 おだわら文化事業実行委員会（小田原市・一般財団法人小田原市事業協会）

共 催 NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル

協 力 NPO 法人ダンスアーカイヴ構想・大野一雄舞踏研究所・有限会社かんた

講 師 大野慶人・松岡 大

ゲスト バケツドラマー MASA・中津川浩章

制 作 溝端俊夫・樋村千佳（有限会社かんた）

萩原美由紀・牛山恵子（NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル）

松井真理子（小田原市文化政策課）

発 行 小田原市文化部文化政策課

〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪 300 番地

TEL 0465-33-1706 FAX 0465-33-1526

E-mail [cultural-create@city.odawara.kanagawa.jp](mailto:cultural-create@city.odawara.kanagawa.jp)

編 集 文化政策課芸術文化創造係 松井真理子

撮 影 木村雅章・木村敬一・安藤誠・牛山恵子・高瀬聖・諸星正美